２０１８　SUPER　FORMULA
JMS P.MU / CERUMO・INGING Race Report

第６戦　岡山国際サーキット

◆ ９月９日（日）　＜ 決勝 ＞　天候：雨　｜　コース状況：ウェット

＃１　石浦　宏明　７位　／　＃２　国本　雄資　８位

2018 年の全日本スーパーフォーミュラ選手権第 6 戦は、天候不良によりスタートが遅れ、さらに規定周回数よりも先に最長レース時間を迎えフィニッシュ。JMS　P.MU／CERUMO･INGING の石浦宏明と国本雄資は、それぞれ 7 位と 8 位でチェッカーを受け、2 台揃ってシリーズポイントを獲得した。

この週末は、秋雨前線の停滞が影響し全国的に雨模様となった。岡山国際サーキットのある美作市周辺も、決勝日は朝から断続的に強い雨が降っていた。決勝レースの時間帯に、さらに雨が強まる懸念もあったため、午前８時にタイムスケジュールの変更が発表された。周回数は当初予定されていた 68 周から 54 周に減算され、レースのスタート時刻は午後 1 時 55 分と早まることになった。決勝レースを見据えたフリー走行は、午前 9 時からスタート。開始 5 分で 1 台のマシンがクラッシュしたことで赤旗中断となり、結果的には 20 分ほどの走行になったが、このなかで国本が 1 分 30 秒 359 をマークし 2 番手につけた。石浦もピットインを繰り返してマシンの調整を行いながら、最終ラップで 1 分 31 秒 305 をマークし 8 番手となった。

昼を迎え、予想よりも雨脚が強まったこともあり、再びスケジュールが変更され、午後 2 時 55 分からのスタートとなった。前日の予選で国本は 8 位、石浦は 9 位となっていたが、朝のフリー走行でクラッシュしたマシンがエンジン交換をしたためグリッドを降格されることになり、それぞれスターティンググリッドは一つ繰り上がることに。国本が 7 番手、石浦が 8 番手で、レースはセーフティカースタートとなった。6 周目まではなんとか周回を進めたものの、雨脚が強まり視界が確保できなくなったことから、7

周目でレースは赤旗中断。約 1 時間後に、再びセーフティカー先導でレースが始まると、13 周目にリスタートが切られ、本格的に第 6 戦決勝レースが始まった。

国本と石浦は 1 秒前後のギャップを保って周回。マシンが上げる水煙も大きく、簡単には差を詰められない上に、足元をすくわれるドライバーも現れ始めるなど、緊迫したレースが進んでいく。23 周目に 2 台の位置が逆転したところで、コース上で他車のクラッシュがあり、またもやセーフティカーが入ることに。ただしこれは 3 周ほどで解除され、27 周目に 2 度目のリスタートを迎えた。ギャップが最小限になるリスタートのタイミングが最大のオーバーテイクのチャンスだが、ここでは石浦と国本の順位は変動することなく、それぞれ 7 位と 8 位で周回を重ねていった。規定周回数の 54 周よりも先に最大レース時間のリミットが近づき、さらに残りレース時間が 5 分を切ったところで 1 台のマシンがコース上でスピンしストップしてしまい、このレース 3 度目のセーフティカーランとなる。結局、セーフティカーが離れることなく最大レース時間の 70 分を過ぎたところでチェッカーフラッグを迎え、石浦は 7 位、国本は 8 位でフィニッシュし、揃ってポイント獲得を果たした。なお、トップの走行周回数は 34 周で、規定周回数の 75 パーセント周回を満たすことができず、今大会ではハーフポイントが与えられることになった。タイトル争いでは、ランキングトップのニック・キャシディ選手が 5 位フィニッシュで 2 ポイントを加算。石浦が 1 ポイントを加算し、山本尚貴選手がノーポイントに終わったことから、石浦がランキング 2 位に浮上。キャシディ選手とは 4 ポイント差で最終決戦を迎えることになる。

また、チームタイトル争いではトップと 3 ポイント差の 3 位に。両タイトルの連覇を目指し、チーム一丸で最終戦に挑む。

ドライバー／#1　石浦　宏明

「レース中は、目の前の 2 台に抑えられているような状況でした。国本選手も、その前の山下選手に引っかかっているように見えましたね。そういう状況で、セーフティカーが入る直前に立川監督から指示があり、国本選手がレコードラインをあけてくれました。チャンピオンシップを考えるとありがたい状況でした。チームにとってもドライバーズタイトルを獲るのは大事なこと。これまでもチームの判断で助けてもらったこともあるので、最終戦で必ずチャンピオンを獲り、結果で期待にこたえなければいけないと思っています」

ドライバー／#2　国本　雄資

「リスタートが切られた 1 周目がチャンスと思っていましたが、序盤のタイヤの温まりが少し遅く、そこでは狙うことができませんでした。徐々にタイヤが温まってからは、逆に前を走る山下選手のペースが落ちてきたようにも見えていたので、このままいけばチャンスがあるかなと思っていました。セーフティカーが入ってからは、水しぶきで前も見えなくなってしまったし、そのままレースを終えたという形です。最終戦の鈴鹿は比較的得意としているところです。しっかりと合わせこんで、ポールトゥウィンできるようにしたいです」

監督／立川　祐路

「理想を言えば､国本に３号車より前に出てもらい、石浦も一緒に前のほうでレースが出来たらよかったのですが、やはりウォータースクリーンの中ではなかなかそれが叶わなかったので、チャンピオンシップを考えたチームの判断として、順位を入れ替える指示をしました。国本には、そこまで非常にいい走りをしていただけに申し訳なかったのですが、３号車が前にいたため、あのような判断をせざるを得ませんでした。今回の結果を無駄にしないよう、1 号車はきっちりとチャンピオンを獲ること、そして 2 号車は勝って終われるような戦いができることを目指し、チーム一丸で最終戦に挑みたいと思います」

総監督／浜島　裕英

「チャンピオンシップを考え、チームの判断で２台の順位を入れ替えることになりました。昨日の予選順位と今日のコンディションを考えると、出来うる限りのベストの形にはなったと思います。ただ、ドライでの専有走行や土曜日のフリー走行など速さを見せるセッションもありましたが、予選結果は思っていたほど振るわなかったりと、調子に波がありました。ここを修正して最終戦に臨みたいと思います」

【正式決勝結果】(上位 10 台抜粋)

Pos.	No.	Driver	Type	Car	Time / Behind
1	19	関口　雄飛	TOYOTA R14A	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14	1:11’57.682
2	18	小林　可夢偉	TOYOTA R14A	KCMG Elyse SF14	0.189
3	20	平川　亮	TOYOTA R14A	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14	2.890
4	5	野尻　智紀	Honda HR-417E	DOCOMO DANDELION M5S SF14	3.998
5	3	ニック・キャシディ	TOYOTA R14A	ORIENTALBIO KONDO SF14	4.832
6	4	山下　健太	TOYOTA R14A	ORIENTALBIO KONDO SF14	6.855
7	1	石浦　宏明	TOYOTA R14A	JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14	8.008
8	2	国本　雄資	TOYOTA R14A	JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14	9.224
9	6	松下　信治	Honda HR-417E	DOCOMO DANDELION M6Y SF14	10.349
10	16	山本　尚貴	Honda HR-417E	TEAM MUGEN SF14	11.740

ドライバースタンディング(第 6 戦終了時点)

(上位 5 名抜粋)

Pos.	No.	Driver	Point
1	3	ニック・キャシディ	29
2	1	石浦　宏明	25
3	16	山本　尚貴	24
4	20	平川　亮	17
5	19	関口　雄飛	17
9	1	国本　雄資	6.5

チームスタンディング(第 6 戦終了時点)

(上位 5 チーム抜粋)

Pos.	Team	Point
1	KONDO RACING	33.5
2	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	32
3	JMS P.MU/CERUMO・INGING	30.5
4	TEAM MUGEN	23
5	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	16.5